



## ユキホオジロ *Plectrophenax nivalis*



寒さが厳しいとき、多くの鳥は群れで暮らしています。群れで暮らしたほうが、エサを見つけやすいからとも、外敵から逃げやすいからとも言われています。

春国岱や走古丹の先端付近の草原で、おながが雪のように白い小鳥が群れで飛んでいることがあります。その名もユキホオジロ。「ユキ」という名が付くとおり、雪の降る冬に群れでやってくる白くてかわいい小鳥です。彼らは、風で雪が吹き飛ばされた草原の地上に降りたり、雪の上に出ているような丈の高い草の穂にとまったりして草の種を食べています。彼らの体を吹き飛ばしてしまうような、冷たく厳しい風に襲われることもある中で、彼らは群れとなり必死に生きています。

かわいらしい姿に似合わず、たくましい暮らしをする小鳥の群れが見られる季節となりました。(K)

## 11・1月のイベント

### 自然観察入門

#### ① はるばる来たぞ渡り鳥！！

#### あ・み・か ウォッチング

【日時】11月14日(日)9:00~12:00(雨天中止)

【対象】どなたでも

【定員】先着20名

【申込】前日までに電話か直接センターへ

【概要】秋は、渡り鳥が北から南へと大移動をはじめの季節。風蓮湖には、移動途中の渡り鳥が大集結。彼らに『会いに』『見に』『そして』『数えに』行こう！



### 自然観察入門

#### ② ワシワシ・カラケラ ウォッチング

【日時】1月23日(日)9:30~12:00(雨・雪天中止)

【対象】どなたでも

【定員】先着20名

【申込】前日までに電話か直接センターへ

【概要】厳しい冬を迎えた風蓮湖に、たくましく、あるいはちゃっかり暮らしている生き物達があります。彼らに会いに、寒さに負けずに飛びだそう！



イベントの申込み・問い合わせは・・・電話でネイチャーセンターへ！

電話 0153-25-3047

イベントは全て事前申込みが必要です。申込締切までに電話か、直接ネイチャーセンターのカウンターでお申込みください。

## 自然予報

11・12月に見られそうな鳥など

### == 11月 ==

<鳥> 秋の渡り鳥、イスカ、ベニヒワ、マヒワなどの小鳥類が飛来します  
 冬の王者・オオワシが飛来します  
 中旬頃、オオハクチョウの飛来数がピークに！風蓮湖全体で5,000羽に及ぶこともタンチョウが冬の給餌場（鶴居村・阿寒町）へ移動しはじめます。  
 風蓮湖のゴマフアザラシの数が増えはじめる。この時期は100頭前後。



### == 12月 ==

<鳥> コミミズクが渡来します。夕方、草原や湿原を飛んでネズミを探したりしています。冬の小鳥・ツメナガホオジロが渡来します。（年により、見られないこともあり）オオハクチョウの飛来数が急激に減ります。本州方面へ移動してしまうためです。タンチョウが完全に見られなくなります。海上にピロードキンクロ・コオリガモ・ホオジロガモなど海ガモが集まってるようになります。



## おもしろ自然コーナー

あしわ 足輪でわかるタンチョウの経歴

「スワン 44 ねむろ」の近くで子育てをしている標識タンチョウ『T77』（1995年温根沼生まれオス）。冬は鶴居村のタンチョウサクチュアリ給餌場で過ごしています。幼鳥時代は、両親が強かったため給餌場では良い場所を押えていて、のびのびと1年目を過ごしました。親と別れてからは他の若鳥と同じように集団で行動していました。

2歳の年の冬頃から、1歳年上の彼女『T68』（1994年浜中町火散布沼生まれ。メス）とつき合うようになりました。給餌場でいつも一緒にいて、やがてカップル（つがい）の証拠と考えられている「鳴き合い」も観察されました。標識鳥の追跡調査では、オスのタンチョウがカップルになるのは3歳位からが普通です。体の大きなT77は、メスにもてたのでしょうか。でもタンチョウ同士のケンカでは、若いT77はひるみがちでした。その分T68が相手に立ち向かう姿がよく見られました。頼もしい姉さん女房です。（続く）(0)



## 海・森・湿原からの手紙

音で感じる ～夜の森から～



「根室市歴史と自然の資料館」で勤務し、コウモリ博士の近藤学芸員と共にコウモリ調査などを実施されている森利博さんから、夜の森についてのお話をいただきました。夜の森っていったいどんなところなのでしょう？

夜の森に出かけたことがあるだろうか。温根沼の西に広がる森は木々が生茂り昼でも薄暗いが、夜ともなれば本当に暗い。その闇から聞こえてくる「音」が何ともいえず不気味なのだ。物音や鳴き声は頭の中を勝手に想像させ、いるはずのない化け物たちの気配さえも感じさせる。音ばかりして、何だか怖いことだらけのようだが、この「音だけの世界」が面白いのだ。

最初の頃は、何かが近づいてくる「ザワッ、ザワッ」という音に恐怖を感じていたが、慣れてくると、それがエゾシカの歩く音だとわかった。それをじっと聞いていると、音の変化で彼らとの距離がわかり、歩いて行く方向、大体の数まで分かってくる。木々の間を時折、「サッサッサッ」と駆け抜ける音が聞こえてくる。これはエゾモモンガで、満月の夜には愛らしい姿

を見ることもできる。私がおなかを満たすためにカレーパンを食べていると、「チューチュー」なんてネズミの仲間が様子を見に、足元近くまでやって来る。まったくスゴイ鼻の持ち主である。それを見ていたのか、「ホー、ホー」とフクロウが突然、間近で鳴いて近くにきていたことにおどろく。姿は見えなくても、動物たちの生活を耳を通して観ることができるのだ。

私は2年前より生き物を調査するために、夜の森に通うようになった。その新しい体験は、想像以上に夜の森が多くの「音」がするところで、それが動物たちの自然の中で生きている証拠であることを教えてくれた。（根室市歴史と自然の資料館 森利博）



# しぜんじょうほうばん 自然情報板

## ハギマシコ



おなかの下面が、薄紅色のワイイ小鳥です。冬になると、ハマニンクウの草原で群れ飛ぶ姿が見られます。でも、年によってたくさん見られる「当たり年」と、あんまり見られない「はずれ年」があります。さて今年はどうでしょう。

## オナガガモ



夏の間、地味な羽をしていたカモのオスの羽が、美しい色に変わってきました。繁殖期に向けて、オスがメスの気をひくためとも言われています。オナガガモのオスは、名前の通り、尾がピンと長くのびてくるのでとってもわかりやすいですよ。まずはオナガガモを探してみませんか？

## エゾシカ



日本で最も大きなシカ「エゾシカ」を良く見かけるようになります。春国岱の草原や湿原を、群れで走りぬける光景を目にすると、思わず呆然と見とれてしまいます。秋から冬にかけて、エゾシカの数がドンドン増えていき、50頭に及ぶ群れがあらわれることも...!?



## オオハクチョウ

オオハクチョウが、夏の間暮らしていたシベリアから、冬でもエサが採れる本州へと移動する旅の途中、風蓮湖で羽を休めていきます。ここでたくさんエサを食べて、本州へ向かう体力をつけているんですね。彼らが見られるのは10~12月中旬にかけて。11月上~中旬頃には、飛来数がピークになり約5,000羽を数えます。白い翼が、森と湖と美しいコントラストを見せてくれますよ。



## =お知らせ=

観察路の一部に、湿った場所がありますので、長靴の着用をお勧めします。

観察路の木道で、老朽化の進んでいる部分があります。歩くときは足元に十分お気をつけください。



## < 10月10日~24日に春国岱周辺で確認された鳥 >

|          |          |         |
|----------|----------|---------|
| アビ       | トビ       | アカゲラ    |
| ハジロカイツブリ | オジロシ     | オオアカゲラ  |
| ミカイツブリ   | オオト      | コゲラ     |
| ウミウ      | ケアシノスリ   | ヒバリ     |
| ダイサギ     | ノスリ      | ハクセキレイ  |
| コサギ      | ハヤブサ     | 死ヒバリ    |
| アオサギ     | タンチョウ    | ヒヨドリ    |
| マガン      | ミヤコドリ    | ミソサザイ   |
| ピンクイ     | ムナグロ     | ウグイス    |
| オオハクチョウ  | ダイゼン     | クイタダキ   |
| マガモ      | ハマシギ     | エナガ     |
| コガモ      | ツルシギ     | ハシブトガラ  |
| ヨシガモ     | アオアシシギ   | コガラ     |
| ヒドリガモ    | キアシシギ    | ヒガラ     |
| オナガガモ    | ユリカモメ    | シジュウカラ  |
| ハシビロガモ   | セグロカモメ   | ゴジュウカラ  |
| キンクロハジロ  | オオセグロカモメ | キバシリ    |
| スズガモ     | ワシカモメ    | アオジ     |
| ピロードキンクロ | シロカモメ    | カワラヒワ   |
| ホオジロガモ   | ウミネコ     | スズメ     |
| ウミアイサ    | ミツユビカモメ  | カケス     |
| カワアイサ    | キジバト     | ハシボソガラス |
| クマガモ     | クマガウ     | ハシブトガラス |

## < 10月22日のオオハクチョウ飛来数調査結果 >

春国岱湾~白鳥台にかけての湖水面  
 : 成鳥 452羽 幼鳥 44羽  
 温根沼 : 成鳥 108羽 幼鳥 6羽





## ねいちゃーせんたー日記

10月初旬、近隣町村の小学生20名程を連れて春国岱を歩いた。「神様が暮らしている場所まで歩いていこう」と言うと、なんだか子供の顔つきが神妙な表情になる。変なことを言うおっちゃんがいるもんだとでも思いつつ、何だか少し気になるようだ。

アオサギやカモの群れを見ながら観察路を歩いてゆくと、神様の暮らす森の入口まで到着した。「神様の暮らしのあとが、この辺にいっぱいあるよ。探してみようか?」と声をかける。数人が気づき始めた。木に穴がある。「何の穴?」とざわめく声が聞こえ、「キツツキかな...」と漏れてくる。そうクマゲラというキツツキが木に穴をあけていたのだ。その穴が、いたるところに見られる。「いっぱいある。すごいね...」そんな声がこぼれた。

森への関心がぐっと高まった気がした。その後、彼らは森に広がるフカフカのコケに触れ、染み出す木の匂いを嗅いで、体いっぱい神様の暮らす森を感じていった。クマゲラという神様が森の素晴らしさを教えてくれたようだった。

帰りの時間になった頃、「また来るね!!」と声が響いた。(K)

## ボランティアグループ「スルク」の活動

### 「スルク」って何?

「スルク」は春国岱ネイチャーセンターの活動を支援、発展させるために活動しているボランティアグループです。これまでセンターの展示物作成や、コンサートの実施などを行ない、今は紙芝居の作成などを行なっています。メンバーには、根室でずっと暮らしてきた方から転勤でいらした方まで、老若男女様々な方がいます。一緒にセンターを盛り上げていきませんか?メンバーは随時募集しています!



### 11月の「スルク」定例ミーティング

日時 11月13日(土) 10:00~

11/28に予定しているイベントの打ち合わせ等を行ないます。

「スルク」の活動にご興味のある方、とりあえずミーティングを見てみたいという方など、お気軽にネイチャーセンターまでご連絡ください。

## 「ネイチャーセンターだより」のメール配信のお願い

通信誌の郵送料削減と省資源を目指し、一部ネイチャーセンターだよりをメールにて(ファイル形式はPDFファイル)配信しています。ご協力いただける方にはメールでの配信に切り換えさせていただきたいと思っております。郵送による発送をご希望の方には今後とも郵送にて配信いたします。

ご希望される方は下記メールアドレスまで、ご自身のアドレスをお知らせ下さい。ご協力お願い申し上げます。

連絡先: nemu\_nc@marimo.or.jp

10人以上  
集まれば!

## 春国岱ネイチャーセンターの団体向けプログラム

- 春国岱・自然学習林での野外での解説 (1~2時間 / 10~20名)
- スライド上映 + 春国岱の自然のお話 (25分 / 10~45名)
- 自然学習林のクイズラリー (1時間 / 10~50名)
- タンチョウのヒミツに迫るタンチョウゲーム (0.5~2時間 / 10~20名)

その他、ご希望に応じてプログラムをアレンジすることもできますのでご相談ください。

利用には申込みが必要です。詳細はネイチャーセンター(25-3047)までお問い合わせください。

などの野外ガイドは、学校団体・町内会等に限定させていただきます。



## 春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

〒086-0074 根室市東梅 103 番地  
TEL 0153-25-3047 FAX 0153-25-8570

- ・入館無料 (双眼鏡無料貸し出しあり)
- ・開館時間 4~9月 9:00~17:00  
10~3月 9:00~16:30

・ホームページ

[http://www.marimo.or.jp/~nemu\\_nc/workn/index.html](http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html)

・e-mail : [nemu\\_nc@marimo.or.jp](mailto:nemu_nc@marimo.or.jp)

2004.10 発行

## 11・12月の休館日



< 11月: 4・5・10・17・24・25日 >

< 12月: 1・8・15・22・24・29~31日 >

休館日: ・水曜日(祝日の場合、その翌々日)  
・祝日の翌日(土・日曜は除きます)  
・12/29~1/5

